

## やってみませんか「サンキューカード」～褒めて認めて育てるために～

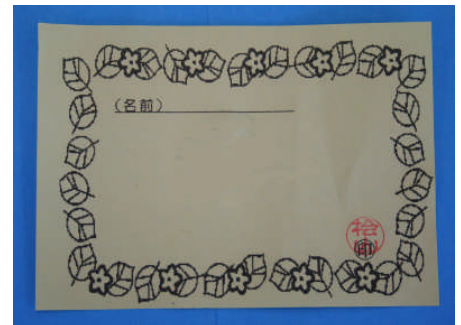
校庭で黙々と草取りをする生徒がいた。通りかかった先生が「良くやっているね。ありがとう。」とカードを差し出した。生徒はそのカードを受け取りながら、「草が伸びていて、前から気になっていたんです。」と微笑んだ・・・



常陸大宮市立第一中学校の教職員のポケットには、いつも「サンキューカード」と呼ばれるネーム（印）入りのカード（写真）が入っています。第一中学校の教職員は、生徒の良い行いや素晴らしい行為に気がついた時、それを褒めて、このカードを渡すことにしています。カードをもらった生徒は、その理由をカードに記入し、担任の先生に渡します。担任の先生は、生徒からカードを受け取りながら話を聞き、その生徒を賞賛します。これが、4月よりスタートした「サンキューカード」の取組です。

「サンキューカード」は、中崎和彦校長先生が、ある中学校の学年主任をしていた時に考案しました。20年程前の話ですが、その時は「ピンクカード」と呼んでいたそうです。当時は、生徒の好ましくない行動に対し「レッドカード」を出す学校がありました。中崎校長先生は、「レッドカード」よりも、褒めて認めるカードの方が、生徒をより良く育てられるのではないかと考えました。「ピンクカード」の誕生です。

このカードを活用したところ、生徒の活動がたいへん意欲的になり、行動も前向きになりました。生徒は、先生がいつも見ていてくれる、認めてくれると感じ、生徒と教職員との人間関係も良好になりました。教職員からは、「生徒に声をかけやすくなった。」「担任の所へカードを持って来るので、生徒との会話がふえた。」「担任の所に生徒の良い情報がたくさん集まるので、良い評価ができる。」「カードを渡すだけなので負担がなく長続きする。」など好評でした。また、保護者からの信頼も深まり、学校に対し益々協力的になってくれたそうです。



中崎校長先生は、「素晴らしい行為についてカードを出すばかりでなく、『先生たちはあなたたちのことを見ていますよ。活動に感謝していますよ。』という教師側のメッセージカードとして活用してほしいと思っています。」と話されていました。

### 話題

#### キャップ5万個で 校舎を描く

常陸大宮市立第一中学校で、5月29日、創立50周年を祝う記念集会が開かれた。

ペットボトルのキャップ約5万個を用いて校舎を描いたモザイクアートの披露や卒業生によるパネルディスカッションなどが行われ、生徒や保護者らが半世紀の歩みを振り返った。

(6月3日付「茨城新聞」より引用)

